

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4091601205, 株式会社さくら苑).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、久留米市内でも単独の高齢者世帯が多い地域に開設し7年となります。職員は当苑の介護理念をモットーに入居者様に生活支援を行っています。令和5年5月から新型コロナウイルス感染症が5類に移行しましたが、ご利用者様やご家族様等にとって面会が重要なものと考え、市内の感染症の感染状況を考慮し、時間制限を設けてはおりますが、ご家族様との面会も大切にしております。ご利用者様が地域社会の一員としての生活を継続できるよう、9月に開催された地域の夏祭り9月に法人開催のホテルニュープラザにての敬老会、11月には広川町の蕎麦屋へ外食などの外出支援も行ってまいります。また、数名のドクター及び訪問看護ステーションとの連携により、ターミナルケア、お看取りの支援も行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL (https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=4091601205-00&ServiceCd=320&Type=search).

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 公益社団法人福岡県介護福祉士会, 福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階).

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道から少し入った住宅地の一角に立地しており、木造2階建ての事業所である。地域から期待されての開設で、7年が経過している。職員は理念を念頭に日々利用者に接している。職員間のコミュニケーションも良好で10歳代~70歳代の外国籍の職員も含め勤務している。勤務年数の長い職員も多数おり、職員の休憩室が確保されているためしっかり休める環境にある。地域の一助となるべく事業所としての役割を果たす為に出来る事に取り組んでいる。緊急事態に備え、敷地内には発電設備がある。地域での福祉の拠点として今後益々期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Results (self-evaluation), and Achievement Results (external evaluation). Rows 58-64 are visible.

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	暖かい家庭的な雰囲気の中でご利用者の尊厳を大切にしつつ、共に暮らしながら心からのケアに努めます。ご家族や地域との交流の中にも安心と安らぎのあるホームを目指します。との法人の介護理念をフロア毎の朝礼時に全員で唱和し、一人一人が利用者様主体のケアを継続することに努めている	法人の理念を基に管理者、職員で話し合い、事業所独自のケア理念を作っている。理念は各階の共有部分や会議室等の見やすい位置に掲示している。月一度のカンファレンスや毎朝の申し送り時に理念を唱和している。職員は日々の関わりの中で理念について振り返りながらケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には散歩に出かけ、地域の方との挨拶を行っている。校区の夏祭りなどへの参加等を行い、地域との交流を行っている	利用者・職員は、自治会主催の夏祭りへの参加や回覧板を届けたり、近隣より野菜等を頂くこともあり交流の機会がある。ホテルでの敬老会を再開し、家族やかかりつけ医、地域のボランティア(ひよっこ踊り、子ども太鼓)に参集してもらったり、敬老会で準備した菓子や事業所作成のカレンダーを近隣に届けたりして地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター開催の認知症サポーター養成講座などに参加し地域の方に対して何が出来るのか模索している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市職員、地域の自治会、他の施設の方達の意見を頂きサービスの向上に努めている	コロナ感染症が5類に移行後は対面での開催となっている。利用者、家族や他事業所職員等も参加し、行事や事故報告等を行っている。参加者より、行政へ事故報告する場合の基準についての質問に対して説明を行ったり、他事業所職員から書類の記入の仕方等参考になったとの感想を貰ったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人の代表者が久留米市介護福祉サービス事業者協議会の理事長をしており、グループホームに限らず久留米市内の事業所の実情、行政としての指導力、協力関係を築けている	法人代表が市との関わりが深く、市から依頼を受けて有償ボランティアの受け入れをしたり、代表を通じて研修の情報等を得たりしている。管理者は制度や事務的なこと等は電話にて問い合わせや相談を行っている。市の担当課長が新任挨拶に来所することもあり、双方で協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行いスタッフの知識向上を行っている。日中は玄関、フロアの施錠はせず、スタッフの見守りを行っており、外に行きたいと希望される利用者にはスタッフが付き添いを行っている	防犯上18時～9時まで施錠している。今年度は気分転換を兼ねて系列事業所と合同で身体拘束に関する研修を実施し、事務課長が講師となり、数回に分けて全職員が参加している。職員は利用者の外出の傾向を把握し、付き添うため、近隣住民の協力を得るまでに至っていないが、地域との協力関係は構築している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会を立ち上げ、全スタッフ向けに年2回の研修を実施。又毎月の委員会時に意見交換を行い虐待防止に取り組むようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度のパンフレットを玄関に置き、誰もが手に取れるようにしている。事業所に後見人が選任されているご利用者がおられ、制度利用が必要だと思われるご利用者様には説明を行うなど支援している	利用者1名が成年後見制度を利用している。必要に応じて管理者が家族へ時間を取って説明するなど対応している。年に一度制度に関する研修を行い、市の研修に参加した職員が講師となり、書面や動画視聴により職員は学ぶ機会を持っている。調査実施時点では、すべての職員が制度に関する理解が十分とはいえない状況にある。	必要な時に支援出来るように尚一層の研修の機会を確保し、職員の制度に関する理解が深まることを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前の見学、ご家族様との会話を重ね納得されたうえで入居して頂いている。入居後も外出や面会時に近況報告を行い信頼関係を築くようにしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で体調などに変化があった際にはお電話で、面会時には声かけ、年に2回家族会を開き、日頃の様子をお伝えしたり、ケアプランの見直し、時にはご家族様の意向を聞き、反映するようにしている	ホテルでの敬老会とホーム内での母の日のイベントの際に家族会を開催している。その際、事業所以外にも家族が意見・苦情を表せる機会や場があることを説明している。家族から洗濯物の入れ間違いや、面会を制限してもクラスターが発生していることへの意見等が出ていた。洗濯物は仕分け時の配慮をすること、感染症防止対策は日頃の取り組みを説明し、運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回運営会議を開き、各フロアのミーティングで出た意見を管理者より、会社へ伝えている。年に一回全体会議を行い、スタッフから直接の意見も聞けるようにしている	利用者の下肢筋力低下予防のために歩いたり、個別に体操やスクワット、マッサージ等職員の意見等を反映させ実践している。職員の異動に関しては事業所だよりに掲載したり、利用者には担当制はあるものの全ての職員が関わるため大きな影響はなく、穏やか生活ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系・職能給基準を明確化した上で、管理者が評価し、代表者へ申し出るシステムを構築。自己評価を含め、各職員がやりがい・向上心が持てるよう配慮している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては、国籍、性別、年齢、経歴などは問わず人柄、高齢者、認知症に対する思いを重視している	職員の採用は、性別や年齢などの条件は設けておらず、10歳代から70歳代の職員が勤務している。職員の希望する勤務条件に応じたり、ストレス軽減の工夫やハラスメント対策にもしっかりと取り組んでいる。勤続年数の長い職員も多く、向上心を持てるような評価の仕組みがある。職員は各々が得意とすることを支援の場面でも発揮していきいきと勤務している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部や社内の研修に参加し、報告書の提出となっている。フロアのスタッフ同士、報告書に目を通し、思いを共有するようにしている	身体拘束適正化委員会により虐待に関する研修が行われ、職員は学ぶ機会がある。職員は日々の関わりの中でプライバシー等意識しながらケアを実践している。管理者は不適切な場面を見つけた場合には職員に話をし人権教育に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修及び法人内研修には多くの職員が参加し、研修報告書を提出し、職員それぞれが自己の知識の向上に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会の総会・ボーリング大会及びその他の研修会、運営推進会議・包括との地域ケア会議などを通じ、地域の他の事業所との交流に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に訪問を行い、その時の困りごとをご家族、ご本人にお聞きしている。入居後はスタッフが見たり、聞いたり、感じたことをカンファレンスで周知。ご本人との関係づくりに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様の困っていること、不安なことをお聞きし、ご家族様の意向等、今後の方向性などを確認を行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、ご利用者様、ご家族様、職員と面談し、ご意向や希望などを確認しながら必要時は訪問歯科や訪問マッサージ、訪問診療等の必要なサービスを利用出来るように対応している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の意思を尊重し、否定せずに出ることを職員と一緒に取り組んでいる。家族的な雰囲気と共に過ごして頂ける様によりよい関係を築ける様取り組んでいる		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の今の課題などについて共に考え、それぞれの意向のすり合わせを行いながら、ご利用者を支えて行ける様にご家族様との関わりを密に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔、職場で一緒だった同僚の方や親交がある友人など、馴染みの関係が途切れないように面会などを通じて支援している	利用開始前迄の暮らしぶりを関係書類から把握している。コロナ感染症の為、制限がある場合でも代表の了解を得て利用者は法事や墓参り、祝い事等家族と共に外出している。その際職員は外出の準備を支援している。利用者が電話をかける際の手助けや年賀状の代筆、投函、懐かしい場所へのドライブ等馴染みの人や場所との関係継続の為の支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中の会話やレク活動、季節のイベント行事等、交流を深めて頂けるよう努めている。ご利用者様に納得して頂き、席替えを行い、トラブル等ない様努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様の退居後も、相談等受けた際は対応したり、年賀状を出したり、良い関係性を続けていける様努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの見直し時など、ご利用者様、ご家族様のご意向をお聞きし反映している。日頃の様子を観察し希望や意向を把握するように努めている	担当職員が主に利用者、家族から思いや希望を聞くようにしている。困難な場合は家族へ利用者の好きなこと、嫌がられることの情報をつたね、日常生活で本人の表情や仕草から思いを推察するようにしている。情報は職員間で共有し、ケアに活かしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご利用者様の生活暦等、ご本人やご家族様から情報収集し、これまでの暮らしやサービス使用の経過等把握出来るよう努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタル測定、様子観察を行い、記録し現状の把握に努めている。夜勤記録、申し送り、個別ノート等を活用し、職員間での情報共有を行っている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様ご家族様等からの情報や意向を取り入れ日々の介護の課題を共有しケアプランを作成している	担当職員とケアマネジャーが協働で介護計画を作成し、月1回全職員でのカンファレンスで評価を実施している。医師・職員・家族等の意見を聞き、必要があれば随時の計画見直しを行っている。計画を変更した場合は、全職員へ周知し、プランに沿ったケアの実践が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子を記録し、申し送りや個別ノートで情報を共有している。気づいた問題点を職員間で検討し、ケアプランの見直しにも活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ニーズを適切に捉えられる様に、ご入居様の心身の状況について、ご家族様や主治医と日々情報交換を行いながら、必要時は病院の受診、訪問看護等のサービスの利用が受けられる様に支援している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用できる地域資源は把握し、外出支援や散歩などを通して近所の方とも交流が持てるように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の希望をお聞きしている。往診の方はそれぞれ、2週間に1度主治医に往診して頂いている。気にかかる事は随時相談し必要時に適切な対応ができる体制がとれている。他科受診の支援も行っている	利用者が入居前からのかかりつけ医、それぞれの医師の往診を受けることが出来ており、緊急時の相談にも対応してもらっている。看護師の資格がある職員が従事しており、心身状態の異変等にも早期に気づきやすい体制がある。専門医受診は、基本は家族が通院介助をしており、受診結果の報告を受け「病院関係ノート」で全職員が情報を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の変化などを記録し、情報や気づきは職場内の看護職や、かかりつけ医の看護師、訪問看護師に相談している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には入院先の医療関係者と情報交換を行い、面会に行き、ご家族様とも連携を取りながら退院後も安心して生活が送れるように支援している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にお看取りまで行っていることを説明している。重度化や終末期になられた際に、主治医や訪問看護ステーション等と連携し、ご家族様と情報を共有しながらご意向に沿えるように出来る限りの支援に取り組んでいる	利用者の重度化、終末期には、24時間医師・訪問看護と連携が取れる体制がある。看取り経験の有る職員も多く、不安がある職員へは先輩や管理者がフォローし落ち着いて利用者、家族に寄り添うケアの実践が出来ている。家族が心残りなく付き添えるように、希望があれば仮眠寝具等を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	お一人お一人のご利用者様の主治医や看護師から予測される急変への対処方法を事前に確認し、全職員に周知している。また、フロアにマニュアルを準備しており、皆で情報を共有しながら実践力が身につくように努めている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている(1回は消防職員立会い)また、年一回は水害訓練を行い、垂直避難訓練や避難経路の確保に努めている。苑敷地内に発電設備を設置、自然災害時には停電が起こる事もあり、照明や冷暖房器具、調理器具などの電源を確保することを目的としている。	今年度は広域避難訓練で利用者とともに避難経路の確認を行い、課題分析もしている。構内にプロパンガスによる発電機を設置しており、地域の福祉避難所としての提供計画もある。火災避難訓練では自治会を通じて訓練参加を呼び掛けているが参加には至っていない。	消防への自動通報先の一に自治会会員の登録協力が得られており、今後は、訓練へ参加してもらい避難誘導時の役割の確認や近隣への周知協力を期待したい。事業継続計画作成中で、現存する災害時対応マニュアルが現状に即したものであることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護理念に基づきご利用者様の尊厳を大切にしつつ、謙虚な姿勢で一人ひとりに敬愛の念をもって言葉かけや対応を行っている	職員は親しみのある方言の中にも丁寧な声掛けを心掛け、訪室する際にはノックをして利用者の了承を得てから入室している。声掛けや対応に気になる場面がある時は管理者がその都度職員を呼びアドバイスをしている。記録はタブレット端末機を使用しており、内容が他者から見えない工夫をしている。個人ファイルは鍵付き書棚に保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通ができる方には声かけし、ご本人様の思いを傾聴し自己決定できるよう支援している。意思疎通が困難な方には表情や反応など感じ取れるよう努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの意思やペース、体調を確認し、ご本人様のその日の状況に応じて対応している。スタッフは体操や歌などの声かけを行うが希望はお聞きしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時には髪や洋服を整えている。訪問美容師に来ていただき希望される方は散髪される。意思疎通がとれる方には着用したい服を選択して頂き困難な方には職員が選択している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理ができるご利用者には、職員付き添いのものと、材料を切ったり、炒めて頂いたり、味付けも一緒に味見しながら、楽しく準備することができている。その他にも、テーブルを拭いたり、お盆に食器を並べたり等できることを、割り振って、一人ひとりが役割を持ちながら、食事が楽しみになるよう支援している	調理担当職員の退職で、外部業者の食材を温めて提供している。家庭的雰囲気継続するため週2日の食事とおやつは、職員が利用者と一緒に献立等を決めている。買い物、調理、味付け、配膳、片付けなど、利用者は楽しんで参加している。敷地内の畑でスイカやキュウリ、野菜などを利用者とともに育て、収穫し調理して、喜んで食されることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりご利用様の状態をみて、栄養のある食事や水は適量で行っている。一日を通しての水分の量も記録し、好みの飲み物などを提供し脱水を起こさないよう支援している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で出来る方には声かけにて口腔ケア行っている。出来ない方にはスポンジや歯ブラシを使って介助している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄のパターンを知り、時間を見て声かけをし、失敗が減るように支援している	排泄チェック表を基に適宜トイレ誘導を促している。トイレは車いすでも排泄介助がしやすい広さがあり、各自の排泄用品は中が見えないケースに保管している。汚物は新聞紙に包み蓋つきポリバケツで処理し、トイレ内はいつも清潔にしている。排泄面が自立した利用者にはトイレ表記の文字の大きさや位置などわかりやすい配慮をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の排便のリズムをつかみ、運動や食物繊維の多い食事、乳製品を心掛けている。水分摂取量も毎日計測し、水分が不足し便秘にならないように支援している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴支援をしている。ご利用者様の入りたいタイミングでの入浴が困難な場合もあるが、出来るだけ対応できるように支援している	ヒートショックが起きないように脱衣室・浴室を温めている。好みの湯温を出しながらたっぶりの湯船につかってもらうようにしており、歌を口ずさみながら楽しむ方も多。特殊浴槽があり、重度化した方もゆったりお湯につかることが出来ている。希望があれば毎日の入浴もできる体制がある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の体調に応じ、休んで頂ける様声かけ観察を行い、安心して安眠や休息が支援している		
49		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と薬剤師との連携を行い、薬の用法、用量を間違えないように説明を受け、支援を行っている。また、全てのご利用者様の処方された説明書をまとめたファイルを作成しておりいつでも確認出来るようにしている。一人ひとりの個別ノートには薬剤師より処方された薬の記入をされている。薬の変更時や頓服薬の使用時にも記入を行い、状態の変化が分かるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、食器洗いや、洗濯物干し洗濯物たたみ等の家事への参加や歌レク、漢字や計算問題等をして頂き、一人ひとりに役割を持っていただくことで、張り合いや楽しみを持って生活が出来る様に支援している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ベランダでの日光浴や車椅子や自力歩行者への散歩の付きそい等、一人ひとりのADLに合わせて、戸外の外出支援行っている。ご家族やご友人が面会に来られた際に、散歩と希望された時は、怪我に注意して頂くよう声かけ見送りをしている	利用者の希望に沿って外出支援に努めている。天気が良い日は近所を散歩したり、コーヒーショップに行き、好みのドリンクを持ち帰ることもある。買い物の希望があれば、車で同行している。今年は紅葉の季節に遠方までドライブに行き、蕎麦屋での外食を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金はトラブル防止の為に、事務所で預かりしている。ご希望があれば、ご家族にお尋ねして嗜好品などが購入できるように支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば電話をかけるお手伝いをし、お話しして頂いたり、LINEにて状態説明を行ったりご家族と交流が出来るようにしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った植物と一緒に育て花を飾り季節を感じられる様行っている。室温、湿度を測定し快的な空間づくりに努めている	廊下やリビングには、職員と利用者が共同で作成した季節感のある壁画を飾っている。テーブルが広く、利用者が思い々の作業をゆっくり楽しめている。リビングはレースのカーテン越しにも日当たりが良く、換気等にも配慮をしている。ソファを設置しており、利用者が寛いだり、談笑の場となったりしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中での席は決めず、誰でも好きな場合に座られる様工夫している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅で使われていた家具や見慣れた小物を置き、ご家族と撮られた写真や手紙、ご自身で色を塗っていただいたカレンダーなどを飾り心地よく過ごせるように環境作りに努めている	居室は掃除が行き届いている。湿温度計を設置しており、本人が心地よく過ごせるように配慮している。自宅からテレビや使い慣れた椅子等を持ち込み、大切にしてきた懐かしい品々や、若い頃や、家族との写真を飾って、本人が安心して過ごせるような工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な動線を確認し、お一人お一人の出来る事を継続し、身体的、機能的低下させないように支援している		